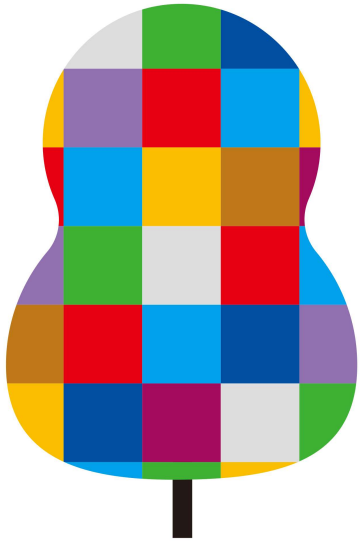
令和7年度文部科学省委託事業
「高等専修学校における多様な学びを保障する先導的研究事業」



学校法人豊野学園　豊野高等専修学校
理事長　山岸建文
鳥羽義広



メタバーススクールゾーンがつくる、新しい学びのかたち

～一人ひとりが安心して挑戦できる“もう一つの学校空間”～

【選べる学び】＝主体性を育てる学校

本校では、メタバース上にもう一つのスクールゾーンを用意し生徒一人ひとりが興味・関心に応じた課題を自ら選び探究する学びを行っていきますます「自分で選び、進路につながる学び」ができる学校を創ります

【安心してつながれる】＝居場所のある学校

アバターを介したコミュニケーションやカウンセリングにより対面が苦手な生徒も安心して人と関われる環境を整えていきます。「学力より、まず心を守る学校」を創ります。

【表現が評価される】＝美術・服飾など「ものづくり」に強い学校

生徒の美術作品や服飾作品をメタバース上に展示し仲間と共に鑑賞・対話する体験を通して、表現する力と自信を育てます。デジタル空間での探究・制作・発表の経験は進学や専門分野、将来の仕事に直結する力を育てます。

令和7年度　事業報告

①メタバース空間の構築
②企業認知度調査
③企業講演実証講座
④佐賀星生学園訪問研修

メタバース空間の構築

研究背景・目的

近年、不登校傾向にある生徒の増加が社会的課題となっている。不登校の要因には、人間関係への不安、対面コミュニケーションへの心理的負担、学校空間そのものへの抵抗感などが挙げられる。

そこで本研究では、メタバース空間を活用した新たな交流の場を構築し、不登校傾向にある生徒が、通常登校している生徒と心理的負担の少ない形で交流できる環境を提供することを目的とした。

本メタバース空間では、

①匿名での参加が可能

②現実世界での立場や属性が可視化されない

③アバターを介した間接的なコミュニケーション

といった特徴を持たせることで、生徒同士が「誰であるか」を意識せず、純粋に対話や活動を楽しめる環境の実現を目指している。



メタバース空間の構築

メタバース空間の全体構成

今年度は、交流の目的や学習段階に応じて、以下の3つのゾーンを設計・構築した。

①クリエイトゾーン（ギャラリー）

②スクールゾーン

③キャリアゾーン

それぞれのゾーンには異なる役割を持たせ、生徒が段階的に社会性や自己表現力を高められるよう設計している。

●クリエイトゾーン●

とよせんアートの森 -「総合入り口」-
https://toyono.cloud.vket.com/worlds/l9NLHJwZ/main.html

服飾コース展示場
https://toyono.cloud.vket.com/worlds/HtDLAIzv/main.html

●スクールゾーン●

https://denney.cloud.vket.com/worlds/kzM067wW/main.html?worldid=kzM067wW

●キャリアゾーン●

https://toyono.cloud.vket.com/worlds/vVG2KCQV/main.html

①クリエイトゾーンの紹介

クリエイトゾーンは、生徒が制作した作品を展示・共有するためのギャラリー型メタバース空間である。展示内容は、イラスト、文章、写真、3D作品、服飾など多様な表現を想定している。

ねらい

不登校傾向にある生徒の中には、対面での会話や自己主張に強い不安を感じる一方で、創作活動を通した自己表現には意欲を示す生徒も多い。クリエイトゾーンでは、言語的なやり取りに依存しない交流を可能とし、「話さなくても参加できる居場所」を提供することを目的としている。

●「金屏風」デザイン展示室●

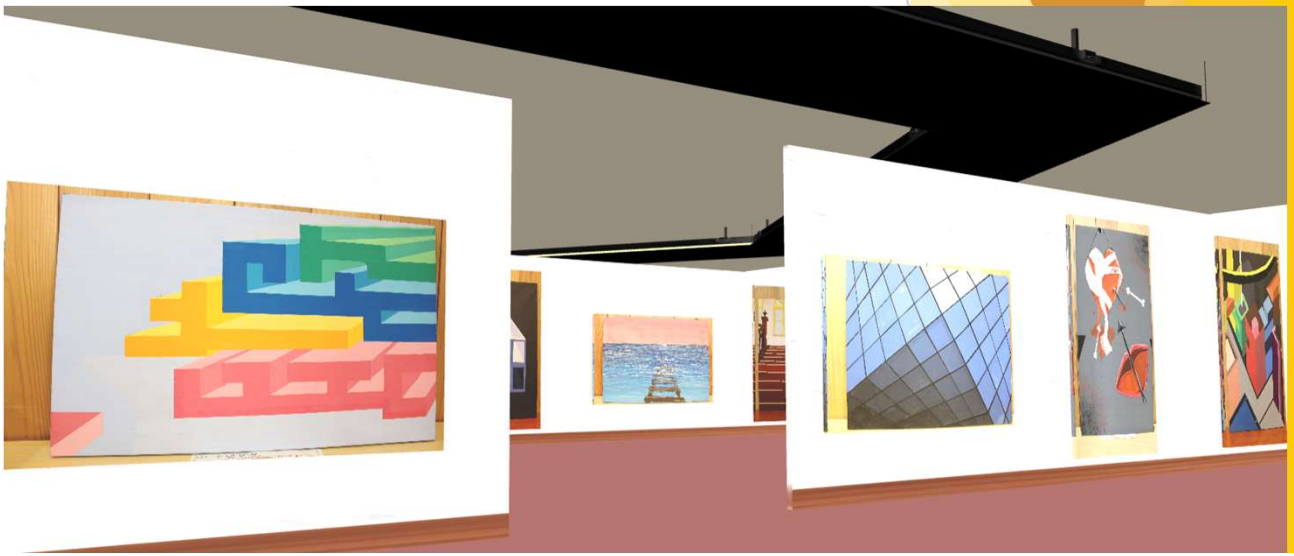




● 「竹灯籠」デザイン展示室●

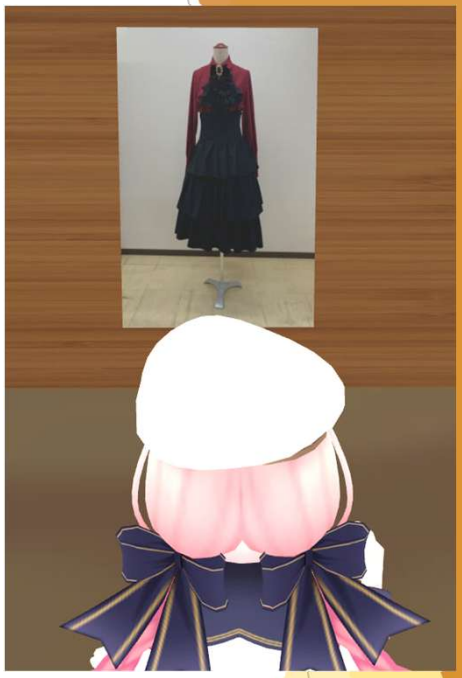


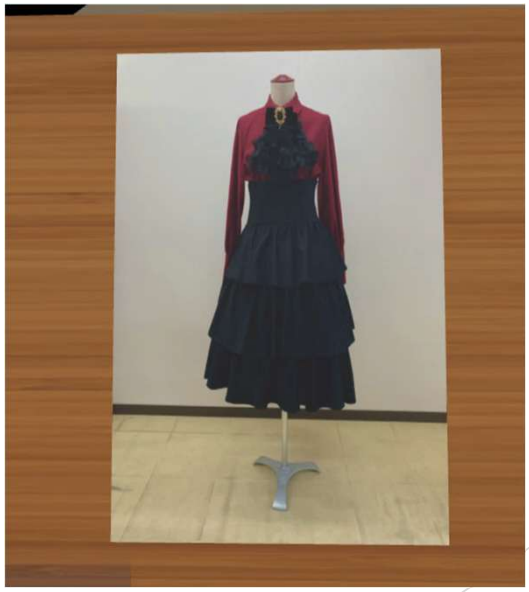
● 「立体造形」デザイン展示室●



●服飾コース展示室●







視点を変えることで
まるでその場で見ているかのような
没入体験もできます。

②スクールゾーン（仮想学校型）の紹介

スクールゾーンは、教室や共有スペースなどを備えた仮想的な学校空間を再現したメタバースゾーンである。この空間では、雑談、グループでの簡単な活動、教員や生徒同士の交流などを、アバターを介して行うことができる。

ねらい

不登校傾向にある生徒にとって、「学校」という場所そのものが心理的負担となっている場合が多い。スクールゾーンでは、現実の学校とは異なり、参加・退出が自由である環境を用意することで、学校的な空間への段階的な再適応を目指している。参加・退出が自由であることに加え、教室で学ぶ生徒たちと日常的にかかわることができる環境を用意。



Siesta Lounge

この部屋では、学習に役立つサイトへアクセスできるほか、博物館や美術館、善光寺の見学もできる。また、さまざまなイベントが用意されており、周囲の人とコミュニケーションを楽しむことができる設計になっている。




eboard
小学校
中学校
高校
かんじ
国語
理科
数学
しゃかい
社会
英語
英語
さんすう
数学
りか

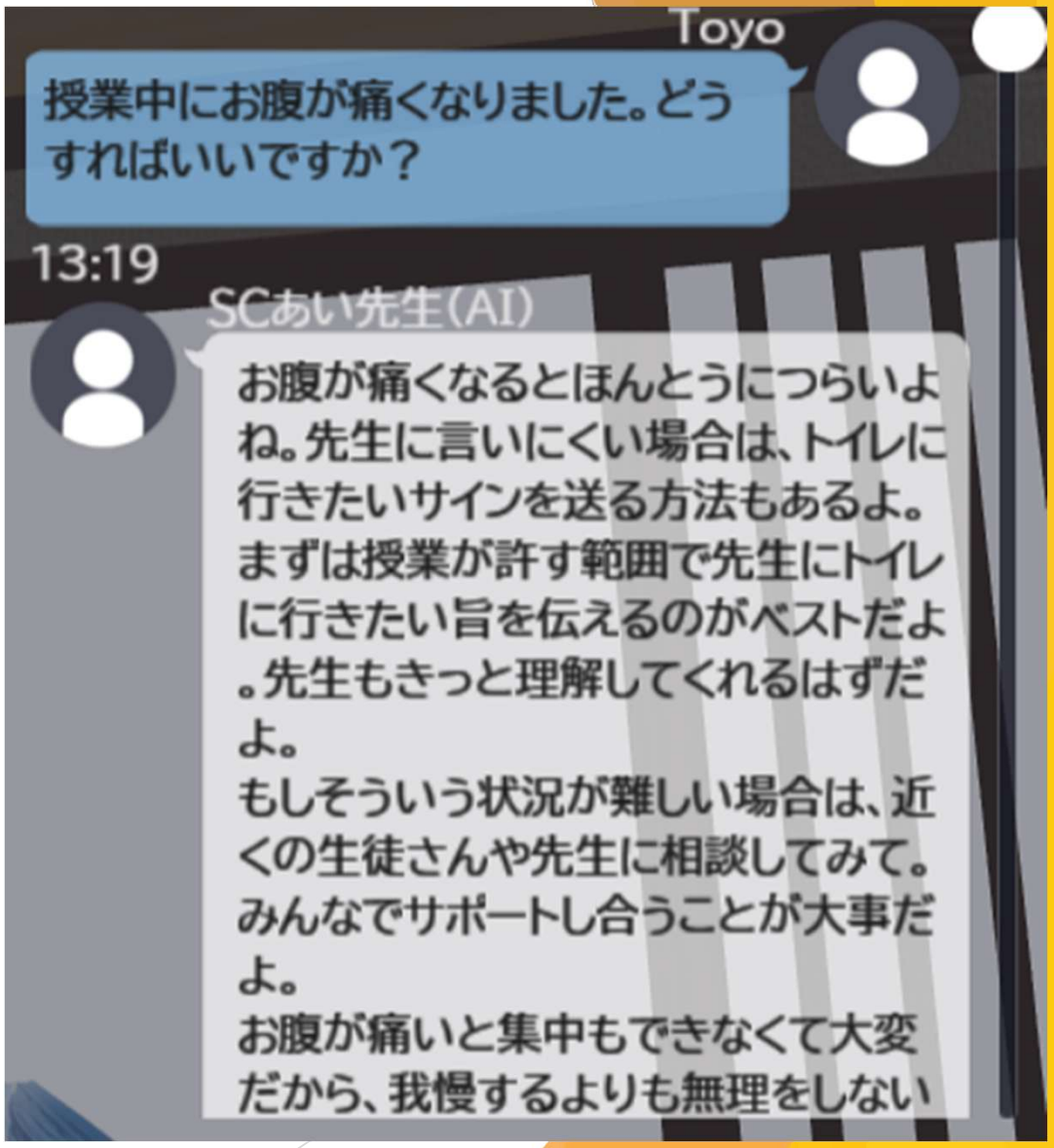

Cyber Dream
Whale Walk
Hello Song
英語
まいにち
英語


MUSEE
D'ORSAY
LE CARROUSEL
DU LOUVRE

カウンセリングルーム



カウンセリングルームの設置の背景と目的は、相談の第一段階としてAIに話しかけられる場を用意し、敷居を下げる。相談の内容によって人（近くの先生や医者）へと誘導する仕組みを取り入れることで、「お友達感覚として相談できる場所」として設定している。



③キャリアゾーン（企業型ブース）の紹介

不登校傾向にある生徒の中には、「将来像が描けない」「社会に出ることへの不安が強い」といった課題を抱える生徒が多い。キャリアゾーンでは、匿名性を保ったまま企業と接点を持つことができるため、対面の進路説明会や職場見学では参加が難しい生徒でも、**心理的ハードルの低い形で社会や仕事を知る機会**を提供できる。







企業ブースでは、企業の基本情報に加え、写真や動画を通して企業の魅力を紹介しており、壁に掲載された写真や紹介文から、各企業の公式ホームページへ移動することが可能となっている。

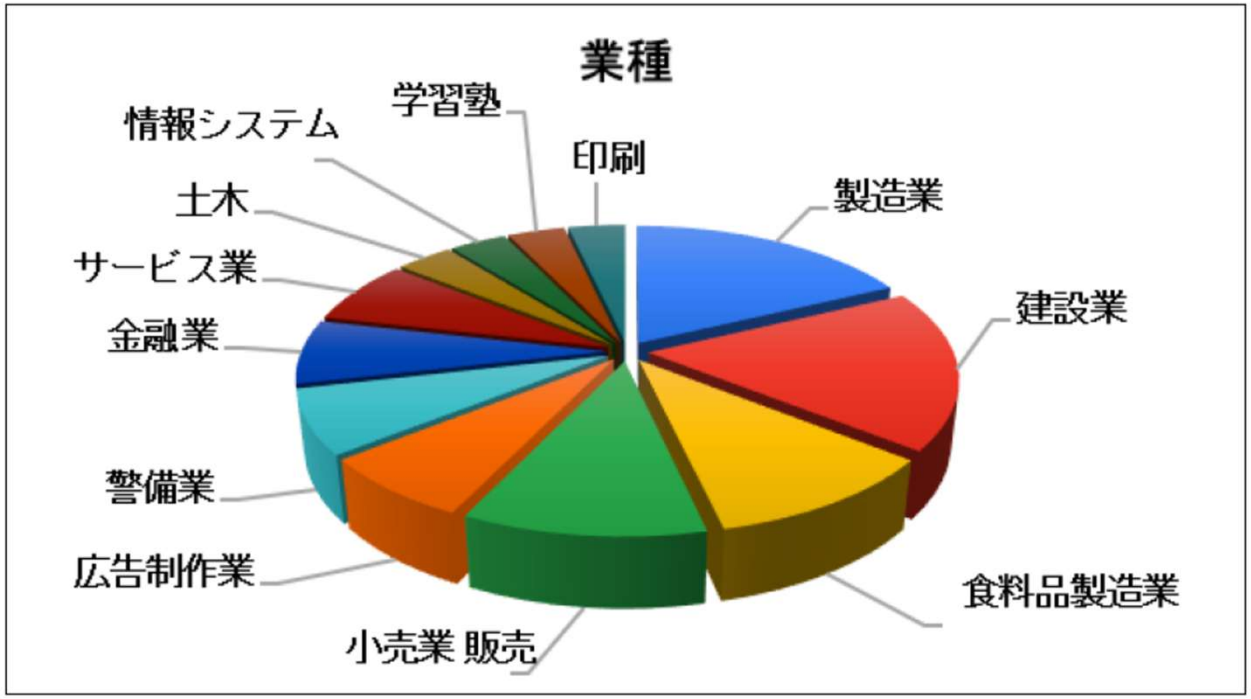
企業認知度調査

アンケートの目的：地元企業の豊野高等専修学校に対する認知度調査

実施期間　：令和７年１１月～令和７年１２月

対象者　　：無作為に選定した地元企業１８０社

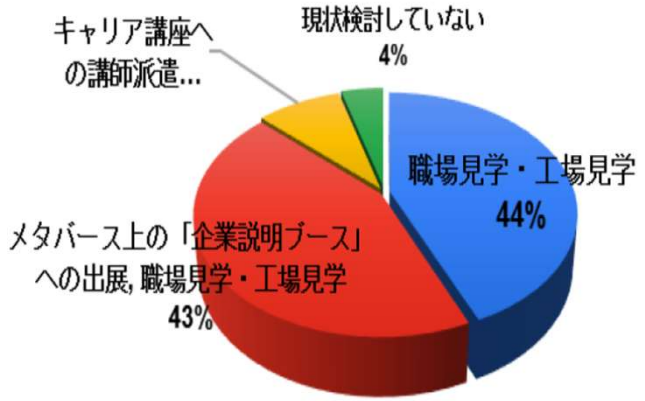
実施方法　：アンケートの趣旨目的を明確にしたお願い文書とアンケート用紙を郵送Google Formにて回答を回収



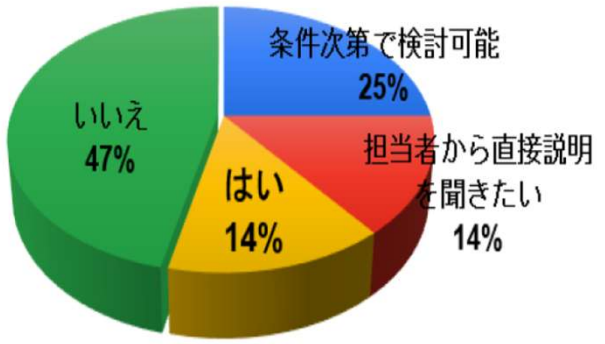
調査結果

質問内容	令和６年度		令和７年度	
	はい	いいえ	はい	いいえ
問１　専修学校という学校種の認知	92%	8%	79%	21%
問２　専修学校における課程区分の認知	42%	58%	59%	41%
問３　豊野高等専修学校の認知	46%	54%	72%	28%
問４　高等課程の各コースの認知	25%	75%	49%	51%
問５　専門課程の各コースの認知	25%	75%	41%	59%

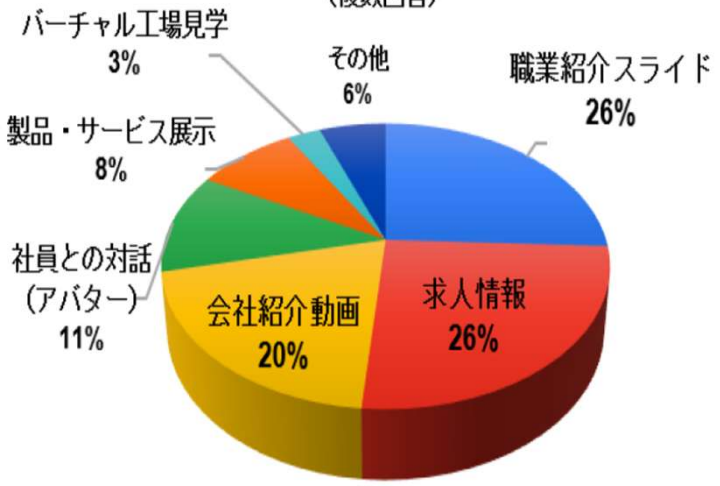
問7　次の中から企業連携において、ご検討いただけるものを教えてください（複数回答）



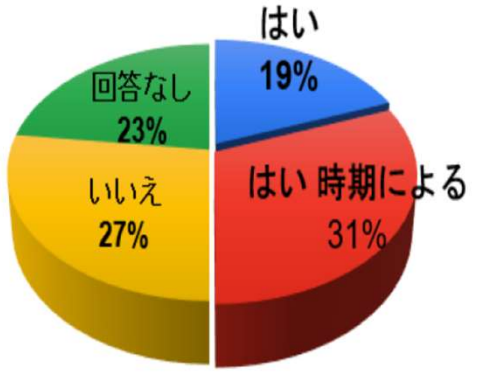
問8　メタバース上への「企業ブース」に出展をご協力いただけますか



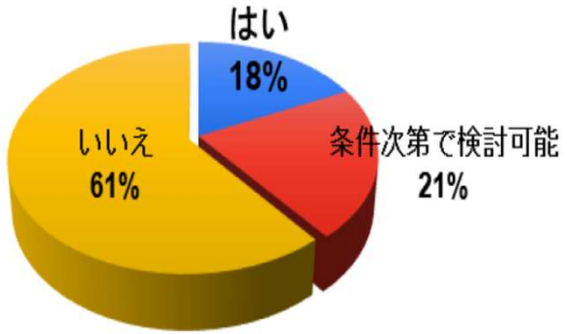
問9　メタバースブースで提供可能なコンテンツは何ですか（複数回答）



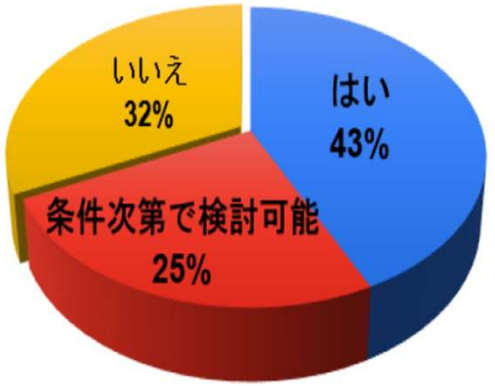
問10　メタバース上で生徒との交流（リアルタイム対話）は可能ですか



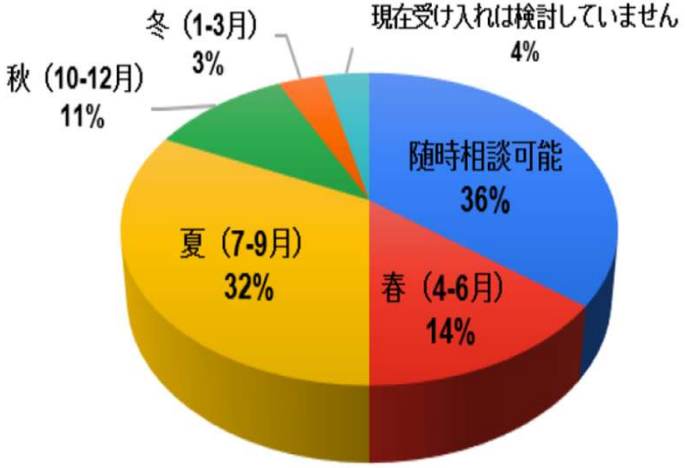
問12　本校で実施するキャリア講座の講師派遣にご協力いただけますか



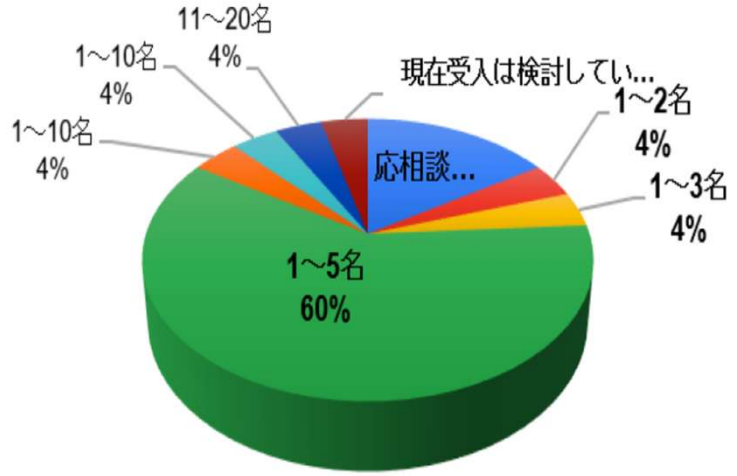
問13　本校の生徒を対象とした職場見学・工場見学の受け入れにご協力いただけますか

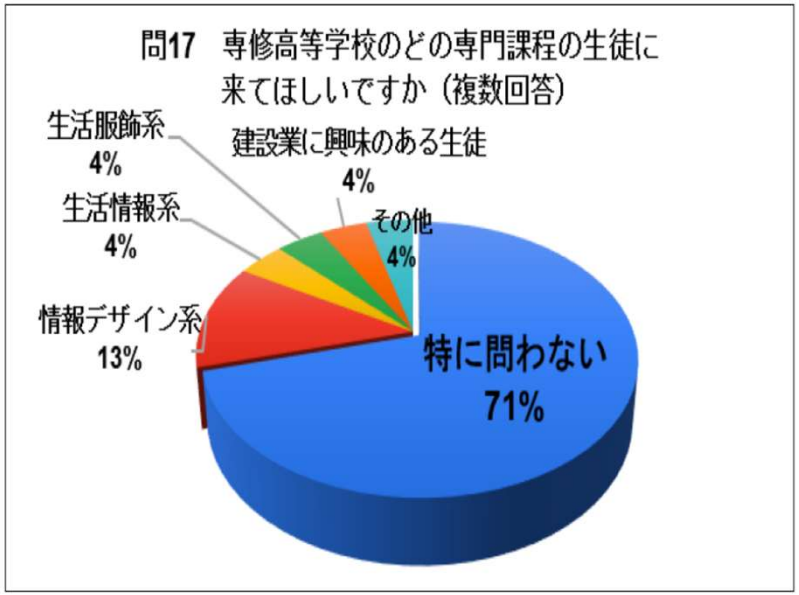


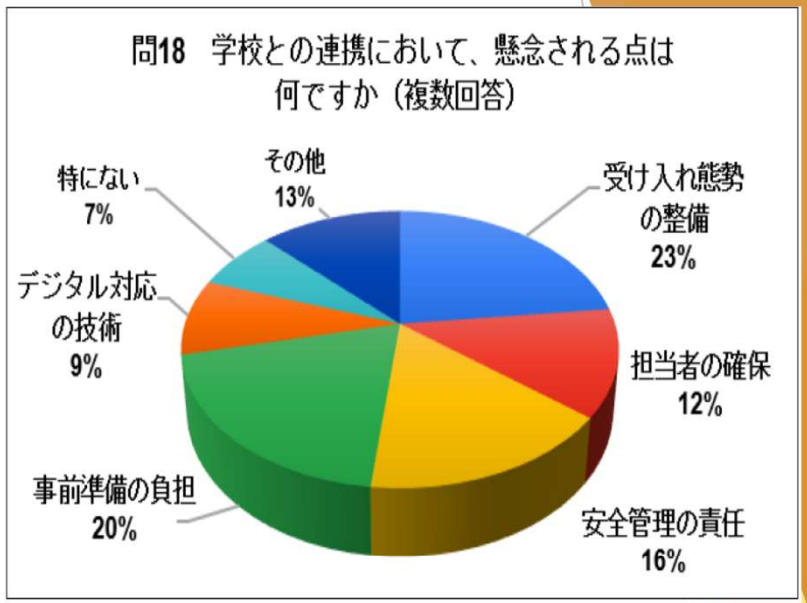
問14　ご協力可能な時期はいつですか（複数回答）



問15　受け入れ可能な生徒の人数（複数回答）







本調査により、豊野高等専修学校の認知度は着実に向上していることが確認できた。一方で、専修学校制度や各課程・コースの具体的内容については、さらなる周知と理解促進が必要である。今後は、制度理解の定着と教育内容の具体的な発信を通じて、進路選択の一つとしてより実効性のある情報提供を行っていくことが求められる。

企業講演実証講座

目的

実際に社会で働く方を講師として学校に招き、職業観・勤労観の形成を目的とした企業講演実証講座の実践を通して、生徒の意識変容や学習効果を明らかにすることを目的とする。特に、多様な職業分野の講師による講話が、生徒の将来設計や自己理解にどのような影響を与えたのかを検証する。

実証講座の授業者

小嶋小百合 氏（ケアビレッジ銀乃扇 代表／介護・保育施設経営者）

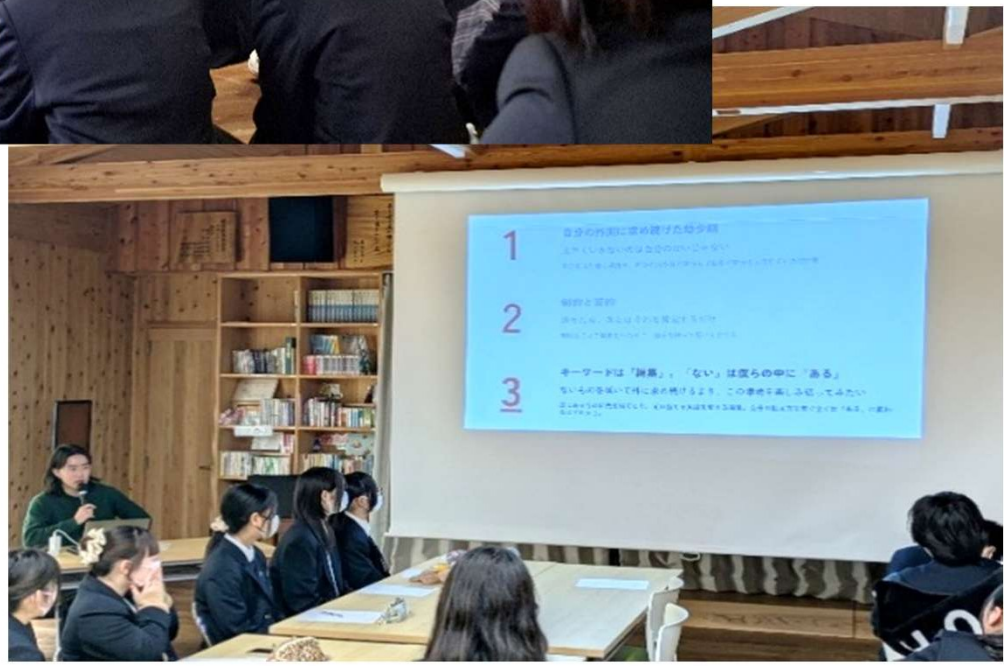
長崎航平 氏（宿泊・飲食拠点運営、地域編集・まちづくり実践者）

丸山真一郎 氏（木の実クラフト作家）

篠塚公治 氏（合同会社ひと葉 代表／教科書・資料集編集者）

関谷優　氏（合同会社N’s Creative代表）


「豊野高等専修学校」本日のテーマ


1
2
3



生徒の声

講師の実体験に触れることで、失敗や困難を前向きに捉える姿勢が育まれた

職業は一つの正解ではなく、多様な生き方の延長線上にあることを理解した

地域・人・社会とのつながりを意識し、自身の将来を主体的に考える姿勢が見られた

特に「今を大切に生きること」「身近なものの価値を見直すこと」といった視点は、複数の講座に共通しており、キャリア教育として高い教育的効果があったと考えられる。

佐賀星生学園訪問研修

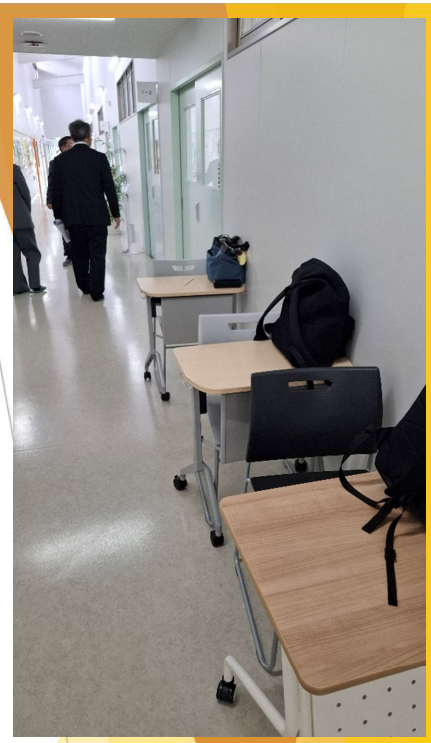
目的

佐賀星生学園での研修を通して、不登校支援、学校づくり、教育理念の具体的な実践方法について検討し、その成果と特徴を明らかにするとともに、豊野高等専修学校の教育改善に資する示唆を得ることを目的とする。星生学園は「教育のユニバーサルデザイン化」を掲げ、不登校や発達特性のある生徒を主な対象とした教育実践を行っており、解決志向アプローチ（Solution Focused Approach：以下SFA）を全教職員で共有している点に大きな特徴がある。



視察から明らかになった星生学園の強み

第一に、教育理念と実践が高度に一致している点である。第二に、小さな成功体験を意図的に設計し、自己肯定感を高める仕組みが多層的に用意されている点である。第三に、施設設計を含め、生徒の状態を前提とした心理的安全性の高い学習環境が整備されている点が挙げられる。



自校への示唆と今後の課題

本視察から、SFAに基づく声かけの共有、検定の段階的導入、グランドルールの明確化、レポート課題の柔軟な設計、生徒の表現機会の拡充などは、自校においても導入可能であると考えられる。今後は、理念を明確にし、教職員間での共通理解を深めながら、実践へとつなげていくことが課題である。



